

◆本時の学習指導案

目 標	1. 斎藤茂吉「死に近き……」をクラス全体で鑑賞させる。 ・基本的な歌の内容を理解させる。 ・「しんしんと」という言葉の持つ働き、母を失うことの「悲しみ」「慟哭」という 2. 発見した歌の内容・テーマを説明文として書かせ各自の鑑賞文を作らせる。 3. グループ内評価・自己評価をさせる。また、グループの代表を決めさせ、発表させ		
過程	学 習 活 動	分	発問・教師の働きかけ (T1)
導 入	1. 「折々の歌」にならい、短歌の鑑賞文を作り、発表すること(本時の目標)を確認する。 2. 短歌「死に近き……」の内容を思い描きながら、短歌のリズムに親しむ。 3. 茂吉が「しんしんと……」を作歌した時の状況を把握する。	5	1. 本時の目標を確認させる。 2. 音読(指名読み)させる。
展 開	* 歌から直接読みとれることを整理する。 1. 臨終に近い「母」の状態、添い寝しながら「母」を気遣い「かはづ」の声を聞いている作者の状態、「かはづ」の声の響き方(どこに・どのように)、時間などを確認する。 2. 「しんしんと」が表しているものを考える。 * テーマを発見する。 3. 「母」を失う作者の悲しみ・慟哭を基本テーマとして押さえる。さらに、静寂と悲しみ、悲しみと「天」がどのようにつながっているのかを深めてみる。 * 鑑賞文を書く	15	* 短歌の内容確認 1. 「母」、作者の状態、「かはづ」の声の響き方を確認させる。 2. 「しんしんと」の表現効果を考えさせる。 * テーマを考えさせる。 3. 「母」を失う作者の気持ち「悲しみ・慟哭」に気づかせ、さらにテーマ発見を深めさせる。
	* グループごとに鑑賞文を読み合い批評する。優れたものを選ぶ。 * 選ばれた鑑賞文を発表する。	10 7 10	* 構成の指示をし、鑑賞文を書かせる。机間巡視しながらグループ分けの指示。個別に鑑賞文作成の助言。 * 鑑賞文を互いに批評させ、優れたものを選ばせる。 * 優れた鑑賞文を発表させる。
ま と め	* 講評を聞き、多角的なものの見方が存在することを理解する。	3	* 講評